



キリンビール(株) 横浜工場が100周年

100周年記念ロゴ
港町横浜の風景と横浜のイメージ
カラーのブルーを基調に仕上げました

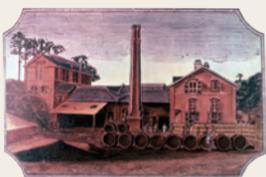
2026年4月、横浜工場は100周年を迎えます。
これからも創業の地、横浜から幸せの時間を届けます



横浜工場の歩み

●ジャパン・ブルワリー・カンパニー設立 1885

横浜山手の地に外国人たちが設立。機械や原料をドイツから輸入、資格のある技師も招聘して本格的なドイツ風ビールの醸造を目指した



●「キリンビール」発売 1888

発売時のラベルには「麒麟」が小さく描かれていたが、翌1889年にJBCの重役であったトーマス・ブレイク・グラバーの提案により「麒麟」が大きく描かれ、現在もおなじみのデザインの原型が誕生した



●麒麟麦酒株式会社 創立 1907

JBCの事業を操業状態のまま引き継ぎ日本人経営の会社となる

●関東大震災により横浜 山手の工場倒壊 1923



●横浜新工場完成 1926

移転を機に技術の向上にも取り組んだ。翌年の新聞にドイツのビール界の権威がその品質に驚嘆したという広告を載せている



●「キリン一番搾り生ビール」発売 1990

●横浜工場広報施設 リニューアル 2016

体験型コンテンツ主体の見学ツアーを開始。

創業の地 横浜と共に

これからも「お客様本位」「品質本位」で

創業100周年を迎える横浜工場



創業の地・山手から生麦へ
キリンビールのルーツは横浜・山手である。明治時代、山手には外国人が経営するビール醸造所が数あった。その中で1885(明治18)年に設立されたジャパン・ブルワリー・カンパニー(以下JBC)が「キリンビール(現・キリンラガービール)」が発売された。JBCの設立には長崎のグラバー邸で知られるトーマス・ブレイク・グラバーも尽力し、後に重役を務めた。このグラバーの提案に

よって現在に続くラベルデザインの原型が誕生したという記録が残る。その後、1907(明治40)年にJBCの資産と事業を引き継ぎ、日本人経営の麒麟麦酒株式会社が創立された。しかし、23(大正12)年の関東大震災により、山手の工場は壊滅的な被害を受けた。被災後、工場再建の地として選ばれたのが現在の鶴見区生麦だった。山手の工場敷地が手狭だったことや交通の便も考慮し、運河に面したこの地への移転が決定された。そして26(大正15)年、横浜工場が生麦で操業を開始した。現在の横浜工場は、キリンビールの国内9工場の中で最大級の生産能力を持つ戦略的な製造拠点。350mlの缶ビールを最大で毎分5000本生産する能力で関東圏の巨大市場の需要を支え、「キリン一番搾り生ビール」や「キリンラガー

キリンビール(株)横浜工場が生麦川が今年で創業100周年を迎える。横浜はキリンビールの創業の地で、その歴史と伝統を受け継ぐ工場は同社国内9工場の中で生産能力トップクラスを誇る主力拠点で、キリングループの経営の原点である「お客様本位」「品質本位」の精神を大切にしている。また、工場見学は年間7万人以上が訪れ、地域の会合での利用や子どもたちが敷地内の散歩を楽しむなど、「開かれた工場」として地域に愛されている。

工場見学には年間7万人以上が訪れる。また、工場見学は年間7万人以上が訪れ、地域の会合での利用や子どもたちが敷地内の散歩を楽しむなど、「開かれた工場」として地域に愛されている。

「ビール」といった主力製品の効率的な大量生産体制が敷かれている。また、ビール造りに欠かせない良質な水資源を守るため、神奈川県と連携して丹沢の森林保全活動への参加や、区内でも鶴見川流域の清掃を定期的に行うなど様々な地域貢献活動を行っている。



笑顔で語り合う藤原工場長(左)と渋谷区長

キリンビール(株)横浜工場が今年100周年を迎え、来年2027年は鶴見区が区制100周年を迎える。そこで今回は特別対談として、横浜工場の藤原義寿工場長と渋谷区長に、長きにわたり地域と共に歩んできた両者の過去への感謝と未来への期待を聞いた。

キリンビール横浜工場長×鶴見区長 特別対談 歴史共有し、100周年のバトンつなぐ 鶴見の発展のため、今後も協働

「横浜工場が生麦の地に移転して100年。なぜ生麦が選ばれたのでしょうか？」
藤原工場長「移転先として東京なども検討しましたが、生麦は強固な地盤や水が豊富に取れること、交通網の発達が見込まれたことが決め手となりました。また、横浜の経済界の方々から「キリンビールは発祥の地、横浜に残ってほしい」という熱い要望を頂き、最終的な決断をしました」
渋谷区長「生麦を選んでいたのは、鶴見にとっても本場でありたいことでした」
「当時の生麦はどのような地域だったのでしょうか？」
藤原工場長「工場の操業が1926年。生麦を含む鶴見町が横浜市に編入されるのが翌27年。当時はまだ横浜市ではなかったもので、市の水道の供給を受けられず市内で

別に事務所を設けて水を引っ張るといった苦労もあったと聞いています。鶴見区制100周年が来年ですから、我々の工場も鶴見区が誕生する頃から、この地域と共に発展してきたという歴史が

あります」
渋谷区長「キリンビールさんは地域に深く関わっていただいている。2024年の生麦小学校100周年では、その記念の歌の中に『ホップの香る校庭で』という歌詞が入っていると聞いて、長きを共に歩んできた証だと感動しました」
藤原工場長「次の100年に向けてこれからも事業を進展させ、雇用の創出も含め地域の発展に貢献していきたい。そして、横浜らしい観光という面でも貢献していきたいと考えています」

最後に読者にメッセージをお願いします。
藤原工場長「おかげさまで100年操業を続けることができました。これもひとえに地域の皆様のおかげと心から感謝しています。次の100年も地域貢献をしながら、鶴見の発展に役立てるよう頑張ります」



工場だけの特別体験 キリン一番搾り おいしさ実感ツアー

所要時間 約80分
有料(1名様500円税込)
※19歳以下無料



見て、知って、味わう。「キリン一番搾り生ビール」のこだわりやおいしさをたっぷり体感できる、ビール好きの大人が楽しめるツアーです。
※都合により内容を変更する場合があります。

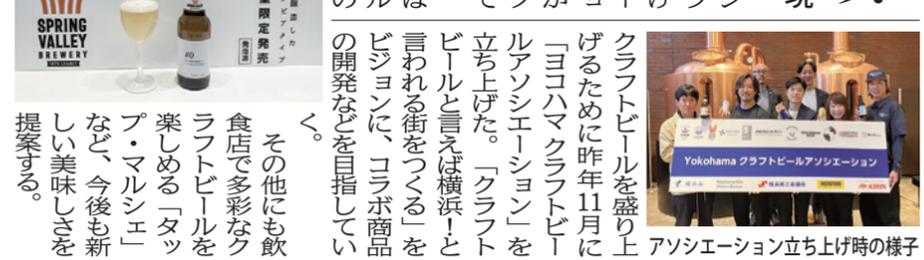


併設レストランでビールにピッタリの料理を
「キリン一番搾り生ビール」のこだわりの製法やおいしさの秘密を発見。
工場見学の詳細はコチラから



クラフトビールに新シリーズ 造り手の創造性を表現

キリンビールが今、カレッジ「ブルワリー」の新シリーズ「ブルワリー」を昨年立ち上げた。同シリーズは「ビール醸造のプロフェッショナルであるブルワリーが、今造りたいクラフトビール」を数量限定で販売する。



また、同社は横浜市内のブルワリーと横浜の「ヨコハマクラフトビール」を立ち上げた。「クラフトビール」と言えば横浜と言われる街をつくる」をビジョンに、「コラボ商品の開発などを目指していきたい」
その他にも飲食店で多彩なクラフトビールを楽しむ「タツプ・マルシェ」など、今後も新しい美味しさを提案する。

「ヨコハマクラフトビール」を立ち上げた。クラフトビールを盛り上げるために昨年11月にアソシエーション立ち上げ時の様子